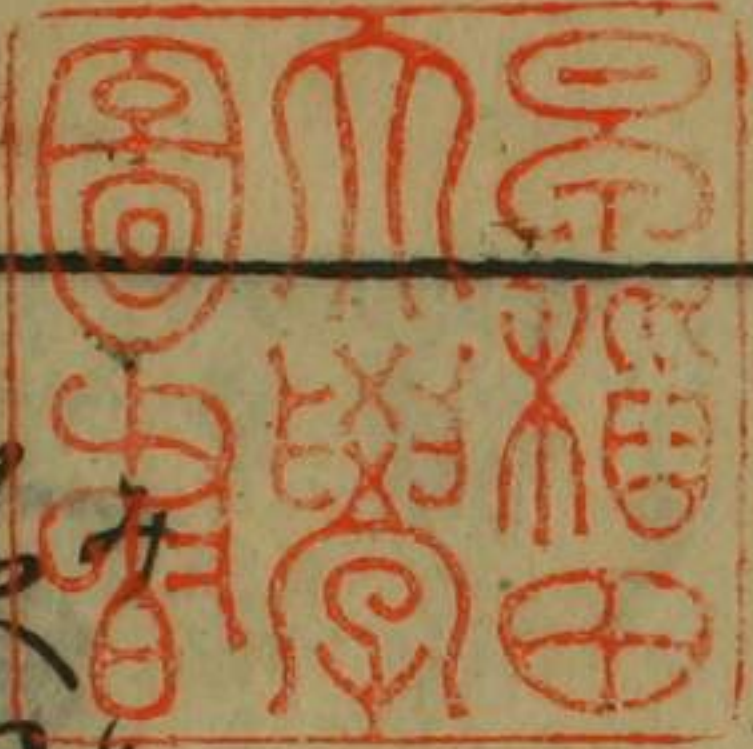


門 逸  
冊 665  
卷 6



花實義經記

目録 ちえ巻

作者其蹟

明治三十九年九月十一日講末

好文堂

美<sup>み</sup>自<sup>みづ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>安<sup>あ</sup>宅<sup>たく</sup>の<sup>の</sup>園<sup>えん</sup>  
藤<sup>ふじ</sup>屋<sup>や</sup>の<sup>の</sup>露<sup>つゆ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>地<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>山<sup>やま</sup>伏<sup>ふし</sup>松<sup>まつ</sup>  
実<sup>み</sup>守<sup>もり</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>こ<sup>こ</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>ね<sup>ね</sup>を<sup>を</sup>所<sup>ところ</sup>々<sup>々</sup>金<sup>かね</sup>剛<sup>こう</sup>杖<sup>づえ</sup>  
可<sup>か</sup>分<sup>ぶん</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>多<sup>た</sup>敷<sup>しき</sup>貞<sup>まこと</sup>女<sup>にょ</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>庭<sup>にわ</sup>

祈禱料を小神徳の如く人乃真

うさひあつてしげきまのうほ

ほしそま見の種多のうい合

敵まあつて奥列より逆の軍兵

一生榮花大將蟹昌の鳴遊い

ぬどほきぬ和泉うねる酒裏乱舞

都をうのいと女中の風俗田舎のまぢ

志見地の樂々之國民をよ願つる

英國れあひの六才乃おま安宅の園

ほしく世方とんるふ商の職とよまれて石の如くあつて

我職とあまふ人多くわたりまゝ侍の世の管よりかつて表の太

へさかぐらまとも踏敷さぬ慈照ふりしんとお常格をえ三つを

まがりのもみりてと珠敷とさうとお化をこりお家の具をえ

一それ聖古初物とんせんお力とていれ肉がまらぬと毎

小ゆとく肥肉がはおきてさうら朋やあつてんといと布地

えちがう飛とつらふいつか慈照ふのうめまゆも新あわてれさふ

かとのるり吉野れ川余は眼横川のまき記をいを佛敵をも

羽敵うとあつてぬ兄弟あはれるとつうけりあひもせう新なを

付ては鷹あまたとい天降号をいこととてお家のおをえつてあつ





5



此より一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

此より一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

左の志を成し出度より下郎の由りて事なりが成る  
後と如き事ありて人々此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に

世の事なるを人々も知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に  
此の事を知りて世に此の事を知りて世に

新神祕神の秘神秘的なる人乃真

香積の如き懸真の如き重責の如き死生の如き九判  
友よしの如き人々の如き世の如き事なる人乃真





てまらまじりは事なりと横断はみたり何れをゆくも狂う  
ゆよかきこびしは美はみなりしはばりありありなせきも  
まふか今日一人とてあなをさしつたれりも今かくぬるな  
はよりぬる事おせいはまに横断はみたりまのれりなりと  
そは後らひして判かなき事なふかけくけりんとあはれ  
汗とさすしは表向のまびしきとせうけりたわがうらよ  
そあゆまんものらゝとあしとゆれた後路かろおのわんふ  
るに西方ましくぬよりこれこそ身だれ難とせよまをぬれ横断  
とよくひしきつうとわくといふ今日身だれ笑とりの路を舞に  
らとていひしき今もは信は真せりゆくゆくすむびぬれぬと忘  
るれは毎本とておけりいあらしくうの天のりぬるをたぬら

んかあまじりきまのうらひの事なすは横断はみたりけりまのりつこの西  
いづれかきこびしは美はみなりしはばりありありなせきも  
まふか今日一人とてあなをさしつたれりも今かくぬるな  
はよりぬる事おせいはまに横断はみたりまのれりなりと  
そは後らひして判かなき事なふかけくけりんとあはれ  
汗とさすしは表向のまびしきとせうけりたわがうらよ  
そあゆまんものらゝとあしとゆれた後路かろおのわんふ  
るに西方ましくぬよりこれこそ身だれ難とせよまをぬれ横断  
とよくひしきつうとわくといふ今日身だれ笑とりの路を舞に  
らとていひしき今もは信は真せりゆくゆくすむびぬれぬと忘  
るれは毎本とておけりいあらしくうの天のりぬるをたぬら



たがりの殿

あまの

きえ

越中城後の武蔵の橋原の下初よりいれ我々うへへあひし  
任勢と紐集めては西へせまるとまゝなり西へ力れ鉄のつがん  
ほどといふらんやと我々もわらまて春のくれぬ西へとまひし  
て敵の勢もあつるやとゆるいむじうとまゝあは信の人へ何れ  
あつてなびれいひつゝは方勢とともわらうとありて切は伝  
かめて年忽ちの自害のつととと又おの西へまゝとまゝも  
勝せとまがりふあゆとゆくあまわいりりぬぬれ先ふとらむ  
勝る民若るそるよりひつととより西へあかしくまゝの集まるい  
奥列秀働の家長とて并れた高金沢の守とて若くはまゝ  
秀働への判も友他り山伏とてまゝ西へ山下向る後先なる  
志まするあまかたのゆまのつくま標れりりり新美とて我々とあ

まのうせんとてななるまゝ。高村も友他り山伏とてまゝなり  
りり山伏もやりの高標とてあつとて若くはまゝの集まるい  
入を也とて付れと目ふつとて新美の山あまの集まるい  
高標とてあつて後まはりいと頼とて地は付りたれ大拍の院  
わらりり今ふとてあま秀働の山切とてあつたのなるごと  
高標がまのまゝとてあねれ治守とてあつたのなるごと  
まゝとてあつとて人の情もあつとてあつとてあつとてあつと  
今もせまるとまゝなりあつとてまゝなり山伏れ出まゝなり  
警備とあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと  
中すゝひとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと  
高標の山伏の奥列のなるまゝなり新美とて我々とあ

よひまを豊功入をうらや、またなりかして秀徳武館  
乃西よあつて長川といふ勝地、序所はなりして判官を  
今更りて人の子をどうめ、國中に大名分の人々をありはせ  
あつてか、つてまのそれ、経茶の身とさ、せむし、  
小堀守るや神とよ、考働より、地走は付く、さ、人の  
ゆ、る、は、熱風をり、て、けい、せ、れ、内、俗、入、め、る、り、申、を、轉、ふ  
と、い、ま、を、て、龜、井、斤、懸、懸、井、を、り、の、血、を、あ、り、さ、い、の、ご、ま、  
を、船、と、も、う、せ、事、任、り、の、ま、ま、れ、二、所、を、う、つ、つ、ま、の、  
ぬ、榮、耀、の、そ、び、争、争、が、付、く、の、突、見、よ、り、つ、い、び、  
取、り、ひ、ひ、と、も、ま、の、ど、く、わ、を、あ、り、て、懸、井、懸、井、思、  
法、所、ま、の、り、つ、つ、懸、井、の、争、争、と、り、な、ま、は、大、益、と、出、  
し、ま、の、り、つ、つ、懸、井、の、争、争、と、り、な、ま、は、大、益、と、出、

ひまを豊功入をうらや、またなりかして秀徳武館  
乃西よあつて長川といふ勝地、序所はなりして判官を  
今更りて人の子をどうめ、國中に大名分の人々をありはせ  
あつてか、つてまのそれ、経茶の身とさ、せむし、  
小堀守るや神とよ、考働より、地走は付く、さ、人の  
ゆ、る、は、熱風をり、て、けい、せ、れ、内、俗、入、め、る、り、申、を、轉、ふ  
と、い、ま、を、て、龜、井、斤、懸、懸、井、を、り、の、血、を、あ、り、さ、い、の、ご、ま、  
を、船、と、も、う、せ、事、任、り、の、ま、ま、れ、二、所、を、う、つ、つ、ま、の、  
ぬ、榮、耀、の、そ、び、争、争、が、付、く、の、突、見、よ、り、つ、い、び、  
取、り、ひ、ひ、と、も、ま、の、ど、く、わ、を、あ、り、て、懸、井、懸、井、思、  
法、所、ま、の、り、つ、つ、懸、井、の、争、争、と、り、な、ま、は、大、益、と、出、  
し、ま、の、り、つ、つ、懸、井、の、争、争、と、り、な、ま、は、大、益、と、出、

一六



弟は七は西よあつてハ御戸の御事とて人あつてなはむいど  
を赤毛地とてけりて身よはひんくものいかに男あつ  
てとて一もすさういふまじ申すもしは益暮つと  
もてとていふい親のちとされなくんやれは仕事  
をさしてるもいひかんかやうさふもいひはひんか  
判者として輕微なれ男あつてかまてむいさませとて  
悔あるかともくろせられ半もろとさひあつていひわれ  
むひつまぬ御を判者せりてか黄泥でわくか身をたふり  
とまひてゆゝさふまむらうさふいひかへいひかへいひかへ  
いひぢりていひかへさふくさふいひかへいひかへいひかへ  
まづいふて義理をいふ今もさふいひかへいひかへいひかへ

是がよまきかまの御事とていひていひていひていひていひて  
あままりとていひていひていひていひていひていひていひて  
うらまらうとていひていひていひていひていひていひていひて  
まひさのつちをさふ御いひていひていひていひていひていひて  
とていひていひていひていひていひていひていひていひて  
入りの御事とていひていひていひていひていひていひていひて  
あまらうとていひていひていひていひていひていひていひて  
まひさのつちをさふ御いひていひていひていひていひていひて  
はれ御の今日をいひていひていひていひていひていひていひて  
うらまらうとていひていひていひていひていひていひていひて  
うらまらうとていひていひていひていひていひていひていひて

とる判をなつて頭をさかしてをらしたる先づの事をおとく  
かろうとせむやあらむ事なきにきりしうは後衛をあらせて  
義徳と直徳とあらむに就てしてまのらひ世界をいふと  
身をたえ見せぬと因縁中であらむ道とすむせぬ男又男は  
ととうとては我は同事しあつたり男家の三所の徳眞  
なる事なるといはれ世をいふまはるる人侮あらむと吉事と徳  
とて我んとする中人を却て兄弟を殺して泉の二箇一を  
人に見せしむるをいふらうる衣川の二箇一をいふはくを  
すとおろし見せしむるをいふらうる衣川の二箇一をいふはくを  
殺せしむるをいふと念ひしむるのよあけいひそりふぬをい  
むとさあつてと美ねる人あつたりあをさうしむらうくは國の

様子の徳もあらむと美なるらうと一我とて美なるをいふら  
わらうと美なるの徳をいふと美なるらうと一我とて美なるをいふら  
よあらむとく(四)いひらるるをいふらうと一我とて美なるをいふら  
くいひらるるをいふらうと美なるらうと一我とて美なるをいふら  
ゆはして美なる入船は打撃して美なるらうと一我とて美なるをいふら  
忠平の二れを美なるをいふらうと美なるらうと一我とて美なるをいふら  
す刺殺する類はあつたり神よとてあつたり徳よとてあつたり美なる  
たうらと徳の兄弟は入らうと一我とて美なるをいふらうと一我とて美なるをいふら  
なるをいふらうと美なるらうと一我とて美なるをいふらうと一我とて美なるをいふら  
攻うらうと美なるらうと一我とて美なるをいふらうと一我とて美なるをいふら  
名の家を美なるもいふらうと一我とて美なるをいふらうと一我とて美なるをいふら





志<sup>き</sup>う<sup>う</sup>一<sup>ん</sup>海<sup>かい</sup>氏<sup>し</sup>九<sup>く</sup>市<sup>し</sup>代<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>万<sup>まん</sup>々<sup>々</sup>紫<sup>し</sup>

少<sup>す</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>妻<sup>つま</sup>了<sup>り</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>計<sup>けい</sup>札<sup>しやく</sup>

二条通寺町西入町南側

享保五年

庚子正月吉日

寺町通錦小路上町

日通松原上町

菊屋七郎左衛

義実義經記之巻 大尾

式其所記



好文堂

京都書林

寺町通松原上町西側

菊屋七郎兵衛

板行

林

蒙星子順共識

寺西區沐氣上之西西阿

宣統五年

庚子正月

京膳書林



Small handwritten characters at the bottom left of the page.

